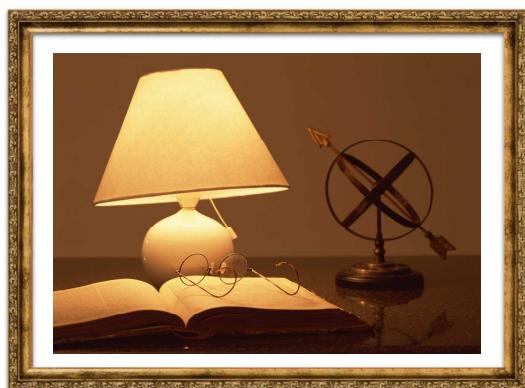


2016

友引町内会
通信

Vol.201

11



秋深き 隣は何を するひとぞ

松尾芭蕉

一般的には、秋も深まり静寂の中にいると、隣人がたてる物音が自然と聞こえてきて、何をしているのだろうと想像してしまう、という感じでしょうか。実は大阪で芭蕉の弟子たちが催した俳句会を病欠したときに、秋深くなつてみんなで何してゐるの、俳句会？主席できなくてごめんね、という意味で寄せた句だとか。

普段着のわたしたち



「天然たいやき」
ってなんだ！私が最
初にする蕎麦屋のお
向かいの店です。
以前『♪およげた
いやきくん』が流
行った頃、お店に「ア
イスたいやき」と貼り出しがあ
り、私はアイスクリームが入ったそれと思
い即買いました。しかし、あんこの普通の
たいやきがただ冷蔵庫で冷やされたもので
した。今回も私は不審に思います。

俊徳丸

胃の調子
が良くない
ので、【重
曹水】を飲
んでいま
す。ちょつ



としょっぱいです。これで胃が良くなっ
てくれるといいのですが・・・。 露の身



てない方は早
めに行かれ
ることをオ
ススメいた
します。

征阿



今年も「ホトト
ギス」が咲き、秋
を感じています。
花びらの斑点模様
が野生のほととぎ
すの胸の羽毛と似
ていることから名
付けられたそうで
す。一輪挿しでもサマになる風情のあるお
花です。花言葉は「秘めた意志」、「永遠の
若さ」。あやかりたや～。 詞梨帝母



近所にレンタル
サイクルのお店
On-Off さんがあ
ります。週末には
若者が車で來
て、ここから北へ
自転車で颯爽と走り出すのです。道路がよ
く整備されていて、信号が少ない。自転車
乗りには絶好のロケーションだそうです。

私？ いや、夜中に足がつるので芍薬甘
草湯とバンデリンを手離せないのですよ。
それなのにやれって言うの？ 迷走坊

『友引町内会通信』はスマートフォンや
タブレットでもお読みいただけます。
<http://www.daigoji-temple.jp/> で検索して
「友引町内会通信」をクリックしてください。
遠くにお住まいのご家族の皆さまにも
読んでいただ
けますように。



寺務局

慶応三年十一月十五日、坂本龍馬の命日。

「今一度日本を洗濯致し候」と幕末の時代を疾走し、大政奉還を成し遂げ、その一ヶ月後、京都で凶刃に倒れます。その日は龍馬の誕生日だったとか。誕生日と命日が同じとは…オボエヤスイ（これ、太宰の話でも書いたような）。

新しき日本を夢見て、明治を見ずして死んだ龍馬。今さらここで龍馬の活躍っぷりを述べるつもりはございません。龍馬について私がかねがね思っていた事を書いてみましょう。題して、

『龍馬が龍馬でなかつたら』。

「龍馬」「竜馬」。字ヅラといい、音といい、宜しき名だと思います。もし彼が「龍馬」という名でなかつたら、同じ功績で違う名だつたとしたら、今までこのように讀えられるのでしょうか。

江戸中期の俳人に堀内雲鼓という方がいるそうです。あえてルビは



ありません。普通に音読みで読んで下さい。

例えば「坂本雲鼓」だつたとしたら、司馬遼太郎は『雲鼓がゆく』なる小説を書いたでしょうか。熱烈龍馬ファンの武田鉄矢はコンサートで「雲鼓よ！私はあなたのように

に生きたい！」と叫んだでしようか。些か品位に欠けてきたので次は「坂本権平」に

しましよう。高知の空の玄関は「高知龍馬空港」でなく「ゴンベエ空港」と名付けられたのでしょうか。20

10年の大河ドラマが『ゴンベエ伝』だつたとしたら、福山雅治はどのように主人公を演じたでしょう。彼が近江屋で絶命するシーンを見て、かのファンは「ごんべえ」と涙ながらに絶叫するのでしょうか。

龍馬は「龍馬」だつたがゆえに、今の世も広く人々に愛されているのではと思うのであります。



な名であれ、己に

物心がついた時に既に馴染んでいるのでありがたいものです。

龍馬で遊んでしまいましたが、決して疎そ

かにしての事ではありませんので、龍馬ファンの方々はお怒りにならぬようお願い申し上げます。京都霊山護国神社の龍馬のお墓をお参りした事も、近江屋跡や土佐藩邸跡の石碑、伏見の寺田屋を拝みに行つた事もあります。なつかしく思い出しながら、没後百五十年の祥月のご供養とさせていた

だいたつもりです。どうかご容赦。

『私説法然伝』（22）

法然誕生⑥

先月号では鳥羽法皇の崩御、保元元年に
おける歴史的状況を書きました。今月はそ
の続きになります。

【藤原摂関家の権勢は藤原道長・頼通親子
時代に頂点を迎えていたが、院政期にはそ
の力を落としていた。諸説あるが白河法皇
の父である後三条天皇による親政の最大の
特徴は「延久の荘園整理令」と呼ばれる
記録 荘園券契所を設置した一連の改革
によって藤原摂関家の経済的基盤であつた
各地の荘園をいくつも失つたことによるも
のである。そして白河帝院の御代より本格
的な院政期に入ると復権の機会を完全に失
う事になった。

白河院政期から鳥羽院政期にかけて「氏
の長者」として藤原摂関家を率いていたの
が藤原忠実卿である。忠実卿は叔父であ
る興福寺別当の覚信の罷免問題をとりな
そうとして白河院の怒りを買うことになり、

若くして藤原摂関家を継ぎ復権を目指そう
としていた矢先に政務への関与の一切を拒
否されることとなつた。その後も白河院時
代はまさに不遇の時代を過ごすこととなる。
ついには白河院の逆鱗に触れ、息子の藤原
忠通卿を氏の長者とし、忠実卿は宇治に
て蟄居となつてしまつた。だが鳥羽院政の
はじまりと共に内覽（天皇に上奏される
文章を先に見ること・役職の一つとして摂
政・関白が内覽の宣旨を受けることが多
い）となり政権に復帰を果たす。だが、関
白職は息子の忠通卿が勤めている。その関
係は次第に悪化していくこととなる。忠通
卿に実子がなかつたため、忠実卿は忠通卿
の弟となる藤原頼長卿を忠通卿の養子と
する。だが、忠通卿に実子の藤原基実が生
まれると我が子に藤原摂関家の氏の長者の
地位と関白職を継がせたく思い、忠実・頼
長親子との関係性は悪化し最悪の状況とな
つた。

不遇の時代を過ごした忠実卿の悲願はた
だ一つ藤原摂関家の復権であつた。その為
には二つ重要な点があつた。一つは天



藤原忠通

以下次号に続く（征阿）

皇の外戚となることで、これは娘の泰子が
としていた矢先に政務への関与の一切を拒
否されることとなつた。その後も白河院時
代はまさに不遇の時代を過ごすこととなる。
ついには白河院の逆鱗に触れ、息子の藤原
忠通卿を氏の長者とし、忠実卿は宇治に
て蟄居となつてしまつた。だが鳥羽院政の
はじまりと共に内覽（天皇に上奏される
文章を先に見ること・役職の一つとして摂
政・関白が内覽の宣旨を受けることが多
い）となり政権に復帰を果たす。だが、関
白職は息子の忠通卿が勤めている。その関
係は次第に悪化していくこととなる。忠通
卿に実子がなかつたため、忠実卿は忠通卿
の弟となる藤原頼長卿を忠通卿の養子と
する。だが、忠通卿に実子の藤原基実が生
まれると我が子に藤原摂関家の氏の長者の
地位と関白職を継がせたく思い、忠実・頼
長親子との関係性は悪化し最悪の状況とな
つた。

う一つは権力の集中化である。その為には
忠通卿では心許なかつた。後に「悪左府」
と呼ばれるほど苛烈にして妥協を知らない
性格でありながら甥となる天台座主慈円か
ら「日本一の大学生」と評されるほどの
学識の高さを誇った頼長卿の存在が不可欠
だと考えた忠実卿は何とかして頼長卿に政
治的な実権を握らせたかったに違いない。
だが忠通卿からしたら、自分を退けよう
とする父のやり方には不信感を抱かざるを
えなかつたであろう。やがて決定的な事件
が起こつてしまふ。

忠通卿では心許なかつた。後に「悪左府」
と呼ばれるほど苛烈にして妥協を知らない
性格でありながら甥となる天台座主慈円か
ら「日本一の大学生」と評されるほどの
学識の高さを誇った頼長卿の存在が不可欠
だと考えた忠実卿は何とかして頼長卿に政
治的な実権を握らせたかったに違いない。
だが忠通卿からしたら、自分を退けよう
とする父のやり方には不信感を抱かざるを
えなかつたであろう。やがて決定的な事件
が起こつてしまふ。

忠通卿では心許なかつた。後に「悪左府」
と呼ばれるほど苛烈にして妥協を知らない
性格でありながら甥となる天台座主慈円か
ら「日本一の大学生」と評されるほどの
学識の高さを誇った頼長卿の存在が不可欠
だと考えた忠実卿は何とかして頼長卿に政
治的な実権を握らせたかったに違いない。
だが忠通卿からしたら、自分を退けよう
とする父のやり方には不信感を抱かざるを
えなかつたであろう。やがて決定的な事件
が起こつてしまふ。

工夫して多くの栄養を

何年か前に葬儀の役僧を依頼され葬儀会場へ行くと、寺院方駐車スペースに軽トラックが止められていきました。どこかの爺さまが間違えて止めたに違いないと私は思い控室に入ると、M君の軽トラであることが判明しました。M君はお寺の住職ですが、何年か前に「米作り」にめざめ、年々作付面積を拡張し、田植え機、中古の軽トラを購入し、今では食べ盛りのお子さん4人が食べてもお寺のバザーに出せるほどの収穫量があるそうです。私も早々彼の今年の新米をいただき、贅沢に精米をして新米の味と香りを楽しめていただきました。新米にときめくのは、日本人の「血」でしょうか。



小学生の頃の夏休み、母が突然、「今日から我が家の主食は、お米からジャガイモにします!」と言い出しました。この種の発言は母にとって珍しいことではありません。つまり、おかげに関しては朝お味噌汁を作りと今迄通りですが、三度三度ご飯の代わりにジャガイモを食べるわけです。茹でたり、油で揚げたりと色々な方法でジャガイモをご飯の代わりに食べました。母の気まぐれは10日間で終わりましたので「ほっと」したことを覚えています。

ここで母が私に何を教えたかったというと、

主食は「お米」だけではないということです。当たり前のように奥が深いのです。

江戸時代以前は、一部の富裕層を除き、お米を1年中食べることはできなかったでしょう。現在より収穫量ははるかに少なかったでしょうし、保存するのも難しかったでしょう。夏になれば麦やサツマイモが主食となり、新米が収穫できるまでの間、粟や稗、蕎麦も食べたでしょう。昔の人は、新米を収穫できる日を今の我々よりもずっと強く楽しみにし、それがDNAで受け継がれているのでしょう。

最近、炭水化物抜きダイエットが話題になっています。それが良いことなのか私にはわかりません。昔の日本のように、季節ごとに主食が変わったことで現在より多種の栄養素や食物繊維を摂取できたことは想像できます。現代ではこれを1日の3食でさまざまな主食を摂るようにしてみてはどうでしょう。例えば、朝食は玄米のお粥。昼食はかけ蕎麦。夕食は麦飯のとろろご飯。私がよく食べるパターンです。

母は、朝のお味噌汁の味噌に対しても同じ考え方を持っていました。豆味噌、米味噌、麦味噌のローテーションで毎日お味噌汁の色が違いました。「豆味噌の日は具に豆腐と油揚げは使っていけないよ、みんな豆が材料だから」と教えられました。

母はパンを主食と認めず、学校給食でも絶対食べませんでした。生徒の手前どうしていたのでしょうか。想像はつきますけど… 俊徳丸

布施行

「この間、片側二車線の道路を走つてたんだ」

「うん」

「そうしたら、先の方で道路工事をやつてて車線規制してたの」

「ああ、そう」

「だから、みんな、規制されてない方の車線に列をなしてたわけ」

「その状況、分からんでもないけど、それって、日本だけじゃないの？他所の国なんか、おかげまいかで両車線で進んで行き、最後に普通に合流するぞ」

「国民性か・・・まあ、それはいいとしてだな、一台の車が、先で規制されている方の車線で来たんだ」

「何十台と『ごぼう抜き』にしてか（笑）」

「ああ。で、よりによつて、私の前に入ろうとするわけ。まあ、ちょうど私のすぐ先で、規制してたからそうなつたんだけど」とするわけ。まあ、ちょうど私のすぐ先で、

「いやいや、別に私は何とも思わないよ。【布施の精神】で、自分が進むべき道を相手に譲る

つたさ」

「布施の精神？エラそなこと言つて・・・布施の精神ということはだな、譲つた相手から【ありがとうハザード】が無かつたとして

も、イラつとしない、ということだぞ」

「ああ、もちろん。その車、当たり前のように

に私の前に入ると、その、【ありがとうハザード】とかいうのも、つけないで進んでいったよ。私は、別に怒りが沸いてきたりはしなかつたよ」

「そうか・・・人間ができるいるんだな。俺なら怒りまくつて、そこから後ろにピッタリつけて煽りまくるよ（苦笑）」

「いや、私はいいんだよ、私は」「どういうこと？」

「いやあ、その車を入れたことによつて、私の後ろのトラックが思い切りクラクションを鳴らしてきたんだ。十秒以上鳴らし続けてたよ・・・」

「えつ？それは、入れたキミに鳴らしたの？」

「それとも、インチキして割り込んだ車に鳴らしたの？」

「そんなことは分かんないよ・・・ただ、布

施行をするにしても、相手、というか第三者を不愉快にさせてしまう布施行があるという

ことに気づいたよ」

「不愉快つて・・・それは勝手にトラックの運転手が怒つただけだろ・・・キミは何ひとつ悪いことはしていないよ」

「ううん・・・それでも、トラックの運転手

を不愉快にさせたことは間違いないことだもん・・・それに、クラクションで意思表示しなくとも、『何で入れるんだ！眞面目に並んでる俺らはどうなる？』って、心の中で怒つてる人もいるだろうし、『そこで入れると、クセになつて、そいつまた同じインチキを繰り返すぞ。そいつの為にもならんぞ』って怒つてる人もいたかも知れないもんな・・・【沈黙の怒り】にも意識を向けなきやな・・・」

「でも、それを言うなら逆もあるかも、だぞ。『おお、優しい人だ。よく入れてあげた』とい

う称賛の声もあつたかもよ」

「・・・」

（露の身）

頭の良い和尚がいた

歴史は面白いですね。明確な史料と、はつきりしない部分の継ぎ目の所に想像力がかき立てられます。

徳川家綱治世の寛文六年（1666年）、美濃國石原村の醫王山代護寺の境内に本堂とは別にもう一つお堂が建立され、高さ四尺五寸の大日如来坐像が安置されました。

この時、第五世の住職であったよう（養の右に良）圓上人は遷座の由緒を板に漢文で墨書きし後世に残したのでした。



應仁の乱は、1467年に始まつて1477年まで。

もし木造彫刻が土中に二百年間も埋まっていたら、ボロボロでしょう。

墨書きの中に出てくる「大日弥陀異名同體」（大日如来と阿弥陀如来は名前は異なるが同じ方）の意味が不明でした。

今年、真言宗薬園寺のご住職北野宥範師から教わりました。真言宗では阿弥陀如来を大百光王如来と申し上げ、念佛を称える行を鎌倉時代から続けてきたと！

大日如来像の開眼供養から今年がちょうど三百五十年の節目の年。十一月三日には、

「往昔醍醐山安養寺（春近村大字森）の大柴燈護摩供養を厳修いたします。」

掘して、寺中に一宇を建立し、安置したものなり」

（遠い昔、醍醐山安養寺（春近村大字森）の佛像であつたが、應仁の乱の最中にその寺が滅亡した後、土の中に埋まつていたのを寛文六年三月、養圓とかいう者が発掘して、境内にお堂を一つ建て、安置したものである）

本尊が出てきた。みんなでお祀りしたいと掘つたら、應仁の戦乱で滅亡したお寺のご役所に届け出ると共に、由緒を記して残しておく。そう考えたと思うのです。

時は流れて大正時代、岐阜県の歴史学の碩学が一堂に会して『山縣郡誌』という郷土史誌が編纂されました。この中に、この佛像に関する記述があり、山号寺号の字が江戸時代のいつの頃からか、以應山醍醐寺と変わった由来も読み解けるのです。

安置当時は、諸宗寺院法度（1665年）で寺院を序列づけ、本末制度を整えさせて、僧侶の心得や儀式の作法、衣服に至るまで寺社奉行が細かく統制していた時代です。

観経物語（99）

正宗分（しょうじゅうぶん）その53

第十一勢至觀（せいしょくかん）その3

《本文その3》

この菩薩が（歩）行する時、十方の世界は、一切に震動する。地の動く處に当たりて五百の宝華ありて、一々の宝華は莊嚴高く顯れ、極樂世界の如し。この菩薩の坐したまう時、七宝の国土は一時に動搖し下方の金光佛刹より乃ち上方の光明王佛刹に到る。其の中間に於いて、無量塵数の分身の無量寿佛、分身の觀世音、大勢至、皆、悉く極樂国土に雲集す。空中に側塞し、蓮華座に坐して、妙法を演説し、苦の衆生を度す。

《意味・訳文》

この（勢至菩薩）が歩行するときには、十方の世界は、いっせいに震動する。その震動する大地の上には五百億の宝石の花が開く。その一つの宝石の花は、莊嚴で氣高くきらびあかであり、あたかも、極樂

世界のありさまを想わせるものがある。

《私訳》

（また）この菩薩が坐したときには、七つの宝石からできた国土は、いっせいに震動する。その動搖は、下方の金光佛の国から、上方の光明王佛の国にまでおよび、その中間（あいだ）に、無量の塵の数ほどの、多



くの分身の無量寿佛や、分身の觀世音菩薩や、大勢至菩薩が、すべて極樂国土の雲のようになに集まり、空中に満ち満ちて、蓮華の台座に坐り、優れた説法を説き、苦のうちに生れた衆生を濟度（＝救濟）しているのである。

勢至菩薩は一切の衆生を照らして、苦の境涯から離れさせる衆生濟度の菩薩であると、釈尊は言つておられるのですから、極樂淨土に生まれた衆生は既に苦から離れていると言えるのです。